

# 愛媛県立宇和島南中等教育学校

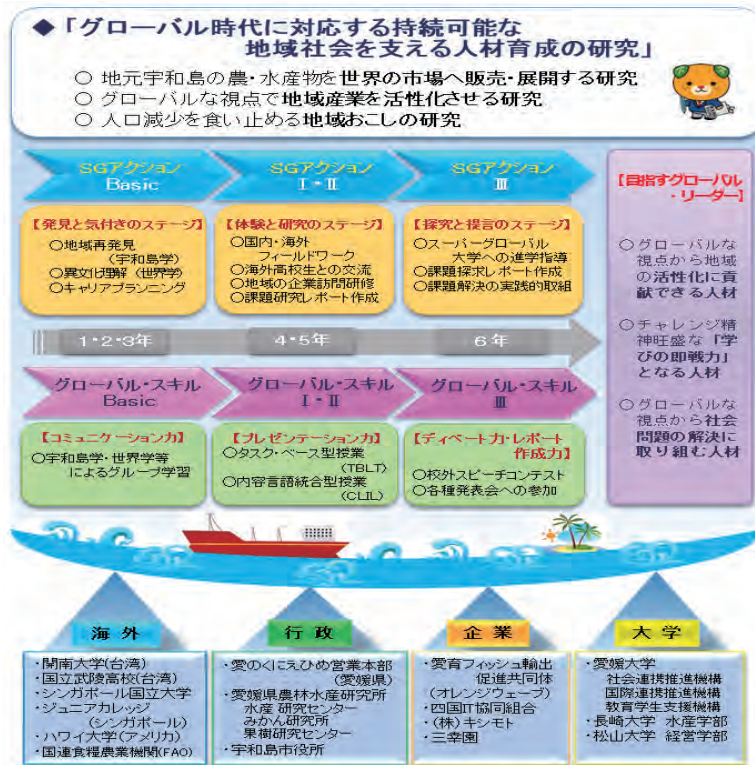
## 宇和島のうみ・やまから世界を考える

### ～ Global Leader Project from the Local Area ～

#### 県立中等教育学校のSGチャレンジ

#### 【構想の概要】

本校では、『グローバル人材を育成するための課題研究プログラム開発（SGアクション）』『コミュニケーション能力を高めるための教育課程の開発（グローバルスキル）』『グローバルマインドの向上』の三つの柱に基づく取組を有機的に展開している。そして、それらの活動を通して、ローカルに対する理解と愛郷心を基盤として地域の課題を解決し、グローバル化していく世界の中で地域の持続的発展のために実践的な行動の取れるリーダーと、探究活動から得た知識や技能、実践力を生かして、自ら考え、判断・行動し、グローバル社会の課題を解決することのできるグローバル・リーダーの育成を目指している。



#### 教育課程

(注：1目盛りは適当に1時間を示す。)

年次	科目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
4年	共通	国総	現社	数I	数II	数A	化基	地基	体育	保健	音I	美I	コミュ英I	英表I	票基	情報	SGA I	GS I	H	R													
5年	SG文系	文系I	現文B	古典B	世史A	世史B	数II	数B	生基	探究理I	体育	コミュ英II	英表II	保健	SGA II	GS II	H	R															
		文系II	現文B	古典B	世史A	世史B	数II	数B	生基	探究理I	体育	コミュ英II	英表II	保健	SGA II	GS II	H	R															
	SG理系	理系I	現文B	古典B	世史A	地理B	数II	数III	数B	物基	物理	化学	体育	コミュ英II	英表II	保健	SGA II	GS II	H	R													
		理系II	現文B	古典B	世史A	地理B	数II	数III	数B	物基	物理	化学	体育	コミュ英II	英表II	保健	SGA II	GS II	H	R													
6年	SG文系	文系I	国表	現文B	古典B	世史B	数研I	数研II	科学人間	生基	体育	コミュ英II	英表II	総合社会	SGA III	GS III	H	R															
		文系II	国表	現文B	古典B	世史B	音II美II	SG III	探究理II	科学人間	生基	体育	コミュ英II	英表II	総合社会	SGA III	GS III	H	R														
	SG理系	理系I	現文B	古典B	地理B	地理B	数III	数研II	物理	生物	化学	体育	コミュ英III	英表II	SGA III	GS III	H	R															
		理系II	現文B	古典B	地理B	地理B	数III	数研II	物理	生物	化学	体育	コミュ英III	英表II	SGA III	GS III	H	R															

## 課題研究「SGアクション」

後期課程(4～6年次)で設定している「SGアクション」は、グローバル人材を育成するための課題研究プログラムであり、各年次において以下のように構成している。

SGアクションⅠ(4年次)では、講演会を実施して地元宇和島の現状を把握し、愛郷心の育成を図るとともに、課題研究への興味関心の喚起及び地域の基幹産業等の知識を習得することを目標としている。課題研究は4～5人のグループで行い、自ら課題を見付けて、より良く問題を解決する資質や能力、プレゼンテーション能力の育成を目指している。

SGアクションⅡ(5年次)では、SGアクションⅠで学んだ知識や技術を生かし、地域の活性化につながる新たな研究課題を見つけ、将来の進路と自らの課題を結び付けながら、個人で課題研究に取り組んでいる。学び方や考え方を身に付け、課題解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度の育成を目指している。

SGアクションⅢ(6年次)では、SGアクションⅡにおける課題研究成果を論文にまとめることで、問題の解決や探究活動に主体的に取り組み、自己の在り方や生き方を深く考えることを実践している。

## 学校設定科目・教科間の連携について

後期課程(4～6年次)において、学校設定科目として「グローバル・スキル」を設定し、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を展開している。この授業では、3年間の継続的な取組により、「話す」「聞く」「読む」の3技能の育成を特に念頭に置いている。4年次では、スピーチ及びミニディベート等の活動を行い、それらの活動を深化・発展させ、5年次では即興スピーチやインタビューを、6年次では即興プレゼンテーションやエッセイライティングなどを、それぞれ実施している。さらに、ICT機器を活用して海外の姉妹校の生徒とテレビ会議交流を行い、議論を深めながら実践的な英語力の育成に努めている。

また、教科間の連携については、CLIL(内容言語統合型学習)を取り入れており、数学科や地歴公民科等の授業の中で、実践的な英語でのコミュニケーションを図っている。

上記の活動等を継続的に行うことにより、英語を話す場面で、間違えることを恐れない積極的な姿勢の生徒が多くなり、英語の各種検定でも成果を上げている。

## 海外フィールドワーク

海外フィールドワークでは、「シンガポール・マレーシアコース」と「台湾コース」を設定している。事前研修と事後研修に力を入れており、現地でのフィールドワークが目的意識を持った活動となるよう取り組んでいる。平成30年度の「シンガポール・マレーシアコース」では、「自動翻訳機(MT)を用いたコミュニケーションの実践」というテーマを設定し、企業訪問等を通じて、自動翻訳機が今後の英語学習や企業の海外進出、国内のインバウンド事業等にどのような影響を与えうるか深く考察することができた。

一方、「台湾コース」では、「真珠」「防災」「ぶりだいこん缶詰」という三つのテーマを設定して研究を行った。特に、ぶりだいこん缶詰班は、平成29年度の同フィールドワークにおける、台湾に住む人たちの味覚についての研究結果に基づき、愛媛県立宇和島水産高等学校が製造した「ぶりだいこん缶詰」を台湾で販売することの可能性を探った。現地のスーパー裕毛屋において行われた「愛媛フェア」において、事前研修で学んだ中国語を駆使し、ぶりだいこん缶詰を完売させることに成功した。

海外フィールドワークの経験を通して、様々な学校や企業と協力することで、自分たちの研究構想を実現できることが実感できたり、少しの勇気を出してアクションを起こすことで新しい発見があることを実感できたりした。この経験を生かし、将来グローバルマインドを持った国際人として活躍することを期待している。